

あ と が き

関西大学学生センターが実施している「学生生活実態調査」は、1955年に第1回の調査を行って以来、半世紀を超える歴史があります。この間、蓄積してきた調査結果のデータは膨大な量であり、学生生活の実態が多種多様に変化していることから、学生の実態をよりの確に把握するため、本学としても貴重な財産として保存しています。

今回の調査でまず注視したい事項は、満足度（問12）です。大学における授業・カリキュラム・施設・設備等の12項目に関する満足度を調査し、すべての項目において前回調査（2015年度）を上回り、大学に対する学生の満足度が向上している結果となっています。また、学生生活の充実度（問13）についても、8割弱の学生が“充実している群”に属し、学生諸君が充実した学生生活を過ごしている様子が感じられる結果となりました。本学では、今後も大学に対する満足度や学生生活の充実度をさらに高めるべく、学生の期待に応えうる取組みを行っていきたいと考えております。

次に、マナーへの認識・配慮（問16・17）については、交通機関、公共施設等における本学学生のマナーに関するご意見が依然として多数寄せられているにも関わらず、半数以上の学生が、本学学生は周囲に迷惑をかけないように配慮できていると考えている実態が明らかになりました。この結果を踏まえ、引き続き、より一層の効果的な啓発方法を検討し、実施する必要があることがわかりました。

続いて、20歳未満飲酒に関する項目（問42～46）では、約4割の学生が20歳未満飲酒の現場を見ても制止しないと回答しており、その理由については「他人のすることには干渉したくない」が最も多い結果となりました。当然のことながら、20歳未満飲酒は法律で禁止されており、最悪の場合には、生命に影響を及ぼす重大事故につながる危険性を持っています。学生諸君には、20歳未満飲酒が及ぼす身体面・精神面への影響等をしっかりと理解をしたうえで、毅然とした態度を持つことを切に望みます。

本学としましては、この調査結果を貴重な資料としたうえで、学生生活や教学における問題点等を改善するために有効に活用していきたいと考えております。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたりご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、アンケートに回答いただいた学生諸君に厚く御礼申し上げます。